



発行 河辺村公民館
編集 館報編集委員会
印刷所 尾上印刷所

昭和四十八年を迎えて

村長 稲田 三温



河辺村民の皆様。明けましてお
自出度うございます。昭和四十八
年の新春を迎えるにあたり、一言
ごあいさつを申し上げます。

昨年の暮れには衆議院の選挙が
ございました。第二次田中内閣が
誕生いたしましたことは、すでに
皆様の充分ご承知の通りでありま
すが、私はこの新しい体制によっ
て行われます新しい時代を、大い
に期待したいと思っております。

県行政におきましても、生活福
祉行政を強く打出された白石知事
でありましたが、案にたがわず他
県にさきがけての発想である「老
人医療の無料化」も、いよいよ本
年からは法制化され、国費により
実施をみるに至りましたことは、
まことに喜ばしいことであるま
す。これ等一連の条例改正その他
重要案件は、さきの村議会におい
ても決議を願ったわけであります
が、本村行政も今日まで大過なく
執行できましては、一重に村民
各位の多大のご助力によるもので
あり、ここに厚くお礼申し上げる
次第であります。

年あらたまる度に、今年こそは
今年こそは何か良い事がありそう
な環境の元に、教育百年の計が敷

な、そんな気を持つております
が、世の中そう甘くはないよう
でございまして、

村行政につきましても本年は大
きな三つの主要問題をかかえてお
ります。去る十一月定例村議会に
おきまして協議を煩わしたことで
ありますが、先ず「村内中学校の
統合問題」であります。三年有余
前より、本村の振興山村事業の一
環として計画いたして参りました
ことではあります、最終的には
り問題は場所の点であり、それぞ
れの立場で多くの方々に心配が
つたわけであります。今回大字
北平(代表地番)宇岡田一、四
六二番地他四一筆、面積二五、四
六七平方、坪に致しまして七、
七〇〇坪の地を最良の位置と選定
致した次第であります。この土地
の所有者の皆様にはまことに無
理なお願いを申さねばならないこ
ととなりましたが、村民一同と
共によりよくご協力下さいませよ
う、ここに伏してお願い申し上げ
る次第であります。

尚本村は地形的に通学が問題と
なる所が出来るわけであります
が、出来るかぎりの対策を検討致
したいと思っております。これ又ご
理解をひたすらお願い致します。
あります。実施順序と致しまして
は、四十八年度建築し四十九年四
月より新入舎と同時に、屋内運動
場とプールの設置を完成せしめ、
近隣の学校に負けない施設と立派
な環境の元に、教育百年の計が敷

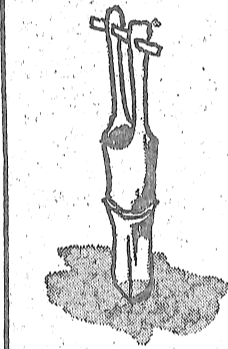
かれ我々の期待をなす子供がそ
ろく誕生することを疑わないも
のであります。
次に第一と致しまして「国営緑
合農地開発事業」であります。愛
媛県がこの国営事業を導入し先ず
始めに大洲喜多地区に計画致した
ことは、将来の地域開発に重大な
意義を持つてものであります。
県の農業政策に
生活福祉社会の基礎産業とな
る。
生産と流通の体制の再編成を
図ること。
自然という弱みに政策保護を
要すること。
自立農業者と兼業農家の協同管
理組織化。
システマ化と農業団体の整
備。
中核都市と連けいた総合農
村計画。

河辺村人口動態

Table with population statistics for 1973 and 1972, including household counts and gender breakdowns.

援助を受けております。又本年か
ら、四国西南山地大規模林業園
開発計画が具体化する運びとな
り、北平と川崎の奥地一帯、つま
にこの意義が有るといわれており
り長崎—日其川—用の山—
川上日除の各部を通る高速林道
(国営完全舗装)の出来るこの計
画が実施出来る事が大きな魅力
であります。

第三に「生活環境問題」であり
ます。最近この問題は国民の注目
する大変な事象となりました。幸
い我々のこの地方には大気汚染と
か水質汚濁等は、直接影響を受け
ることが無いから安心であり
ますが、健康で文化的な生活をも
たすことは誰の願望でもありま
す。道路問題を取り上げて見ま
しても概ね主要地帯で導入出来
ましたが次は舗装であります。
県道はまだ各所に幅員拡張
つたり、改良工事を要する箇所が
多く残り、その用地地主の温かい
ご理解が出来れば、バス路線間
は二方年で改良舗装出来る筈であ
ります。村道その他農林道等も同
じく改良工事を要します。需
益者の負担金が余りにも多いた
め、思うに任せぬのが現状であり
ます。すべて日常生活環境を良く
する上で、最も大切なことは近隣
関係者が、協調性をもつことから
始まると思っております。最近で
いうミニミニづくりであります。住
民意識と村行政の結びつきを理
解し、最後には皆様の益々の健
勝とご多幸を祈りつつ年頭のご
規模の公共施設を設置し、人間的
いさつと致します。



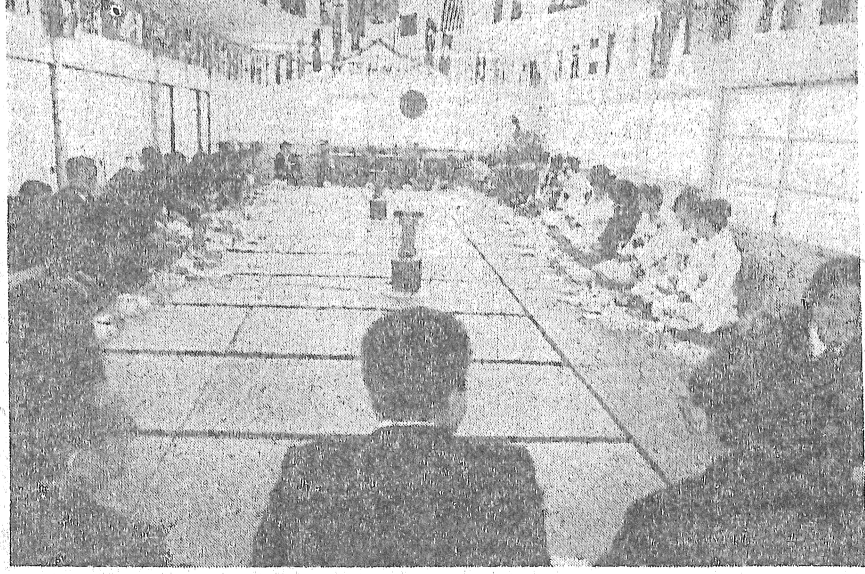
ご成人おめでとう！
Uターン成人者で賑わう式典



公書、人間疎外の都市から、ふ
てみて、すべての成人者が、高度
な識見と折角正しい態度に力強
く好感を覚えたい。
この成人者達の生れたのは、昭
和二十八年です。戦後の飢餓
も混乱も知らず、すくすくと成長
し、高度成長—経済繁栄の中で
人間を形成してきた若者達です。
さうに当時の農村を思い出させ
る成人者、都会には働け口がなく、農村
にはおびただしい数の若者が溢れ
て、二、三男対策問題は極めて深
刻ではありましたが、なせか農村
にはある種の活気が漂っていました。
若者を失った現在の農村と逆
の時代であったと言えましょう。
ともあれ、成人者代表は謝辞の
中、「私達は都会に出て始め
て、郷土の自然の美しさ、人の心
の豊かさ等を学びました。わが
河辺村を忘れることなく頭張りま
す。」と力強く述べた式を閉しま
した。

昭和四十八年成人者名簿

Table listing names of graduates by family name (氏名) and residence (部落).



四十八年の農業展望

二年頭計画

日本農業の未来像について、これまで幾度かの発表が行なわれ、その中には、農政に

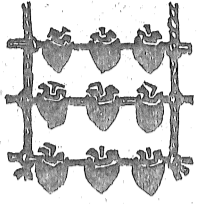
それにもかかわらず農家は、農業の将来について暗い見通し

考えてみる。農業生産の目標といわれても、結局は農民

日本の経済成長は、今年もまた高い水準を維持するであろう

収入拡大の必要性は更に強まるであろうから、他産業への

就業の度合いは一段と高まり、農家の階層分化は進み、農業



大洲農業改良普及所長



一日に二時間は運動を老年期にはいると、からだを大

発育期の子どもたちに、運動がその発育を促すように、老年期

の最も大切なことは、老化を防ぐことである。老化を防ぐ

六十歳をすぎても、週六日動めたり仕事をしている人は、一日の

週七日の一日は、これまであげたいろいろな方法をせよ心身を鍛

つとめて仕事をすると、長い年月働いてきた方々にとつて、

筋肉、関節がたかくなり、その硬化の速度は、日に月に加わつて

シリーズ(2) 長寿読本

遠くまで歩く

六十歳をすぎても、週六日動めたり仕事をしている人は、一日の

筋肉、関節がたかくなり、その硬化の速度は、日に月に加わつて

きます。これを防ぐ大切な方法がだを使わなくても、

漫画家が鉛筆の線で一人の人の姿を表現する時、肩、背、腰の

このように不注意でいると、いつか肩がこり、背がこ

六十歳をすぎても、週六日動めたり仕事をしている人は、一日の

週七日の一日は、これまであげたいろいろな方法をせよ心身を鍛

つとめて仕事をすると、長い年月働いてきた方々にとつて、

筋肉、関節がたかくなり、その硬化の速度は、日に月に加わつて

頭を使い、気を使うな老年となると肉体の衰えも無視

により血圧が上がり、心臓もいためられがちです。

昔とったきねづか肉休労働でも精神労働でも、年

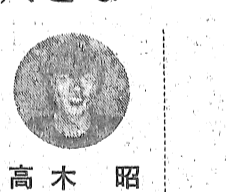
六十歳をすぎても、週六日動めたり仕事をしている人は、一日の

週七日の一日は、これまであげたいろいろな方法をせよ心身を鍛

つとめて仕事をすると、長い年月働いてきた方々にとつて、

筋肉、関節がたかくなり、その硬化の速度は、日に月に加わつて

成人となって生れて二十年。世間の何事



高木昭

今日、「成人の日」を迎えて、その責任の重大さを痛切

成人式に出席して、村長さんをはじめ、来賓の方々の温

六十歳をすぎても、週六日動めたり仕事をしている人は、一日の

週七日の一日は、これまであげたいろいろな方法をせよ心身を鍛

つとめて仕事をすると、長い年月働いてきた方々にとつて、

筋肉、関節がたかくなり、その硬化の速度は、日に月に加わつて

増本喜久男 軒のつらら朝日にとけてつきつき七色の珠をたたりおとす

関井恵美子 押入れの古き箱なる針刺しに幸うすかりき亡母を偲べり

関井八重 雪におわれ餌を求め小鳥らの軒場近くにさえずり高し

名本勅滋 朝なきの瀬戸の内海さわやかに来たり去りゆく冬山の鳥

上林よし子 帰省せし子等の愛車が家々に見えてひととき里のはなやぐ

古梅貞道 降り積もる雪の重みを保ちつゝ杉の林の白き静かさ

清水孝 春雪で丹精こめし造林地折れ伏す姿に声なくくめぐる



文芸 (短歌)

紅梅の春しはせしほころびもゆづの雪に白く交りおり 船田春子
我が納屋にねぐら定めし群雀乾粒喰みつゝ何を語るや 船田正路
鶏小屋の前に育ちし一群の葉けいづの色日毎にこめし 大西ミツマ
減反にわが里はますます山となり公害の地に君は住み行く 稲森ユキエ
庭松の枝に交えて紅梅の今一輪が咲き初めており 久保ミヤ子
安全旗吾子にふらせて無事なれと夫を見送る初雪の朝 河本キヨカ
久に来し孫を後より抱き上げそとまわしつ機嫌うかがう 戸田薫明
岩はだの苦あざやかに甦える春のきざしの木蔭溪流 戸田薫明

家庭の日 毎月第三日曜は ゆっくり話し合う時

下二ヶタ見やすい所のみ当り 牛 当り年夫のろく引いて行き